

NTTドコモのネットワーク事業における 社内QuickSightコミュニティの取り組み事例

株式会社NTTドコモ 中山 広実

アジェンダ

1. QuickSight導入の背景・現在の状況
2. コミュニティ活動の取り組みについて
3. まとめとこれから

自己紹介

- ◆名前：中山 広実
- ◆所属：株式会社NTTドコモ
 - ◆ネットワーク（エリア品質）
- ◆AWS歴：約2年
- ◆好きなAWSサービス：QuickSight, Lambda



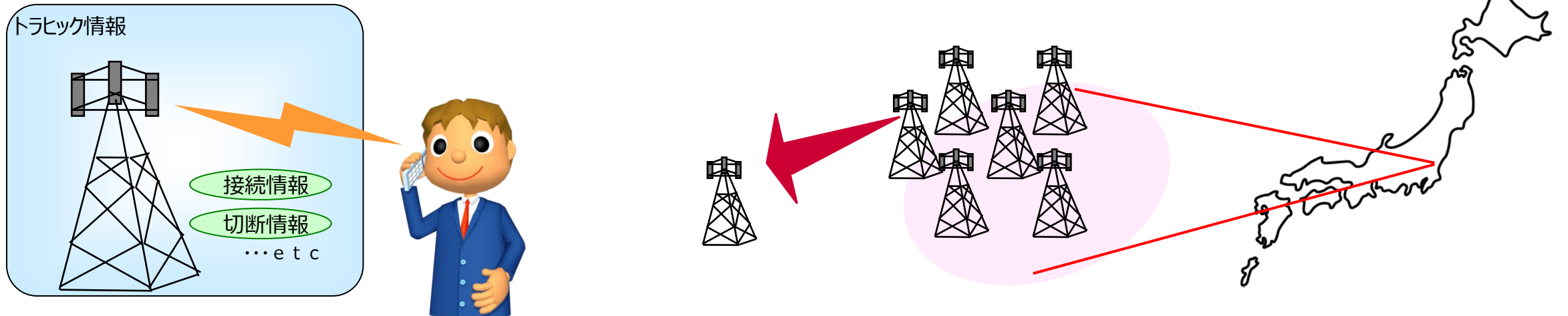
QuickSight導入の背景・現在の状況

ネットワーク事業について

- ◆ ネットワークの安定運用や通信品質の向上がミッション
- ◆ 全国のネットワークデータ分析・可視化
- ◆ 日々、分析で扱うデータ量は数TB規模

ネットワーク事業のデータ分析

- ◆ 基地局で様々なデータを収集→分析に利用
- ◆ 分析者毎(目的毎)に分析単位や規模は様々な
 - ◆ 基地局単位、エリア単位(xx駅前など)、都道府県単位、…
 - ◆ 月単位で前年同月比較、分単位で設定変更前後、…



QuickSight導入の目的

1. データ分析におけるDX化の促進
2. ダッシュボード機能における事例・ノウハウ共有
3. 気軽に複雑な分析を行える環境の提供

QuickSight導入の決め手

- ◆ 他社のBIツールと比較して安価かつ月額
 - ◆ ユーザに気軽に分析を行ってほしいという要望と合っていた
- ◆ フルマネージドサービスの為メンテナンスが楽
 - ◆ AWSさんの手厚いサポートも！
- ◆ 他システムでもAWSを利用しているため連携が容易
 - ◆ データソースとなるDBとの連携が簡単だった

利用イメージ

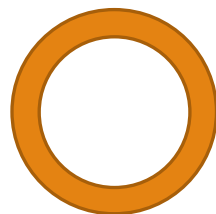
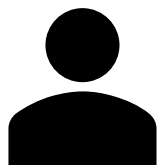
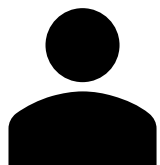


データ分析担当が
データを分析



QuickSight

閲覧のみ



分析したい人が
データ分析できる環境

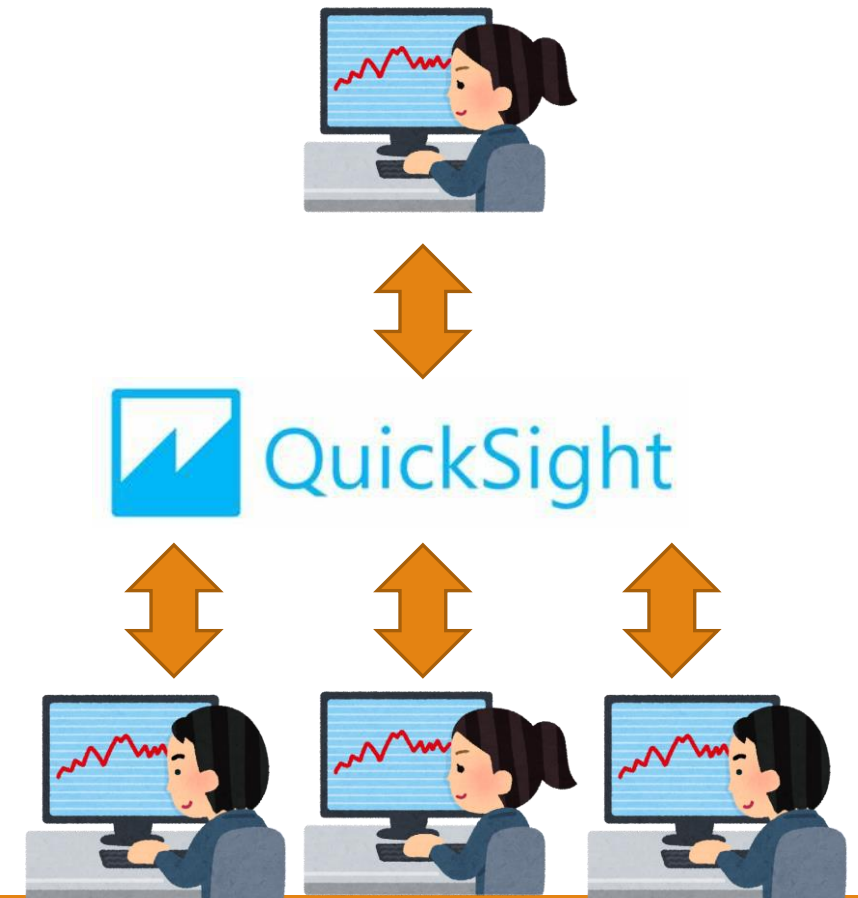


QuickSight



利用イメージの背景

- ◆ 定型化できる分析は一括して作成
- ◆ 定型化出来ない分析も多い
 - ◆ データの種類・分析単位が多岐
 - ◆ 都度データの用途が変わることも
- ◆ 新しい分析手法の発見に期待

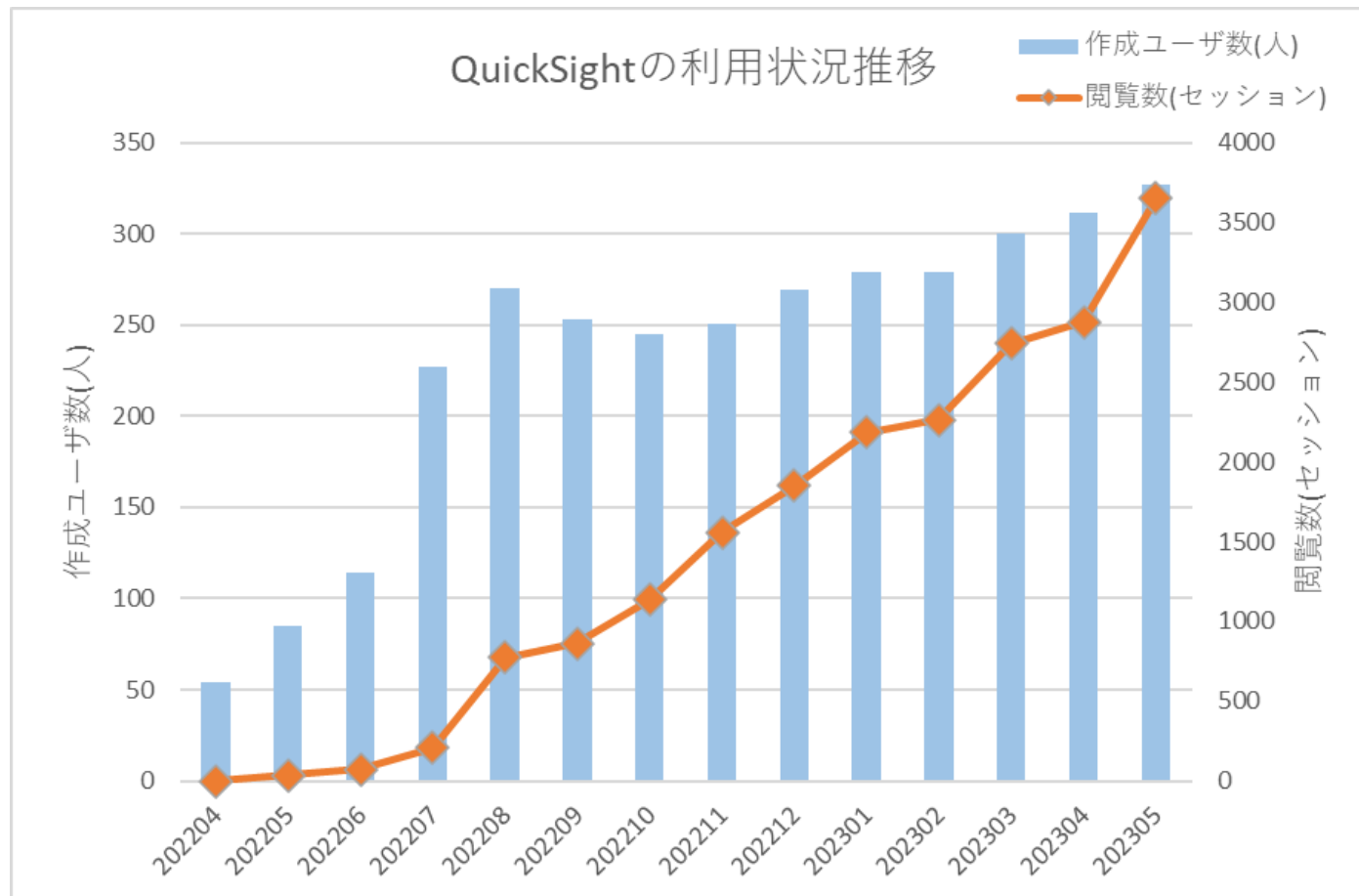


現状の利用状況

◆ ユーザ数・閲覧数共に増加傾向

◆ ユーザの属性も増加

◆ ダッシュボードの増加に伴って閲覧数増加

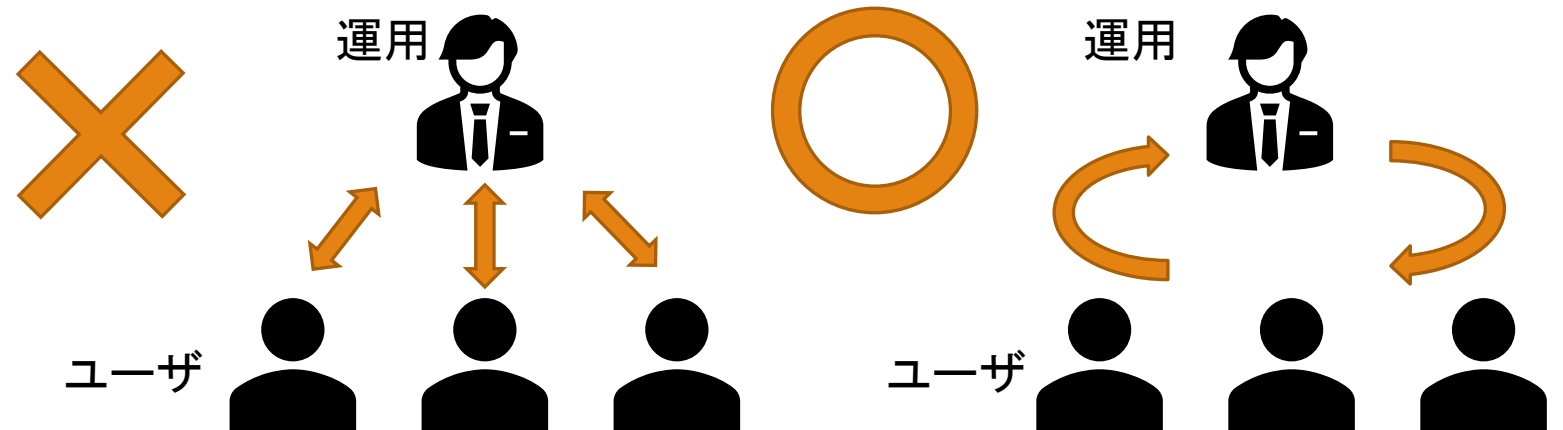


コミュニティ活動の取り組みについて

コミュニティ立ち上げの経緯

◆ QuickSightの利活用を促進したい・社内認知を広めていきたい

◆ ユーザ同士で事例を共有し合える・何でも相談し合える環境を作りたい



コミュニティの規模

- ◆ 全国各地のネットワーク系(特にエリア品質)の分析業務でQuickSightを利用しているメンバーが参加
- ◆ 最近ではエリア品質以外のメンバーも増加



目指すコミュニティの姿

- ◆ ユーザ対ユーザの会話が増えて、レベル問わず気軽に誰でも質問でき、誰かが回答してくれる
- ◆ ユーザが自主的に勉強会を開催したり、事例を共有しあってくれる

▶ コミュニティの自走

主な取り組み

- ① Slackでの専用チャンネル
- ② 勉強会・事例共有会
- ③ ダッシュボード作成イベント

主な取り組み

- ① Slackでの専用チャンネル
- ② 勉強会・事例共有会
- ③ ダッシュボード作成イベント

Slackでの専用チャンネル

- ◆ QuickSight導入当初に立ち上げ
 - ◆ 当初は運用チームからの周知が流れるだけのチャンネル
 - ◆ 質問などは運用メンバにDMや電話で来ていた
 - ◆ チャンネルで質問するように促し続けた

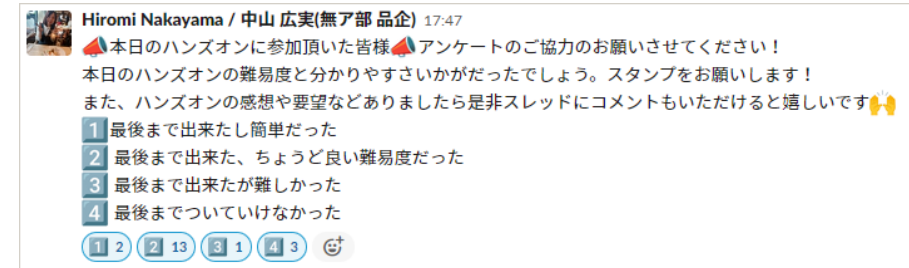
- ◆ 徐々に質問・相談をチャンネルで行ってくれるように
 - 今では運用チームが回答する前に誰かが返信してくれている

主な取り組み

- ① Slackでの専用チャンネル
- ② 勉強会・事例共有会
- ③ ダッシュボード作成イベント

勉強会・事例共有会

- ◆ 勉強会を月1回程度の頻度で開催
 - ◆ レベル別のハンズオンやTIPS解説を実施



- ◆ ユーザからの事例共有会も定期的に行う
 - ◆ 分析事例や新しい使い方の共有
- ◆ QuickSight関連外の会議でもQuickSightを使った分析事例共有をユーザ自ら実施
 - ◆ 徐々にユーザ主体での発信も増えてきた

事例①

- ◆ xx支店でQuickSightを使って生み出された新しい分析手法を全国向けに会議の場で共有
 - ◆ 他支店からも同様の分析を行いたい声が多数
- ◆ 同じ分析をしたいときも、QuickSightなら分析の共有や複製からすぐに再現が可能
 - ◆ 後からでも分析手法を追える

▶ 全国展開・ノウハウ共有に最適

主な取り組み

- ① Slackでの専用チャンネル
- ② 勉強会・事例共有会
- ③ **ダッシュボード作成イベント**

ダッシュボード作成イベント

- ◆ 運用チームの手厚いサポートを受けながらダッシュボードを作成してみよう！というイベント
 - ◆ 4月に第1回を開催し、8月第2回を実施中
- ◆ 完全にQuickSightが初めての参加者でも、業務に使えるダッシュボードの作成ができ大好評
- ▶ 使うきっかけを作ってあげることが重要

事例②

◆ダッシュボード作成イベントの参加者の声

自分ではわからないけど実は初歩的なことかな...？質問したらおかしいかな...？
という不安も消えるくらい親切にさせていただいて**安心して取り組みました。**

0からのスタートでしたが、イベント前に作りたいものを共有する時間があり
作りたいものを具体化させることができました。

Quicksightを使ってみたいという方にピッタリなイベントだと思います！

SQL使うのも初めてなメンバーも参加してみました！

こんなに簡単にできるならもっと早くから使っておけばよかったと思いました。

コミュニティの取り組みからの学び

- ◆ Slackのようなコミュニケーションの場を作ることは大切
- ◆ 良いものが出来ればユーザ自身から発信したくなる
- ◆ ユーザの第一歩を踏み出すきっかけを与えることが重要

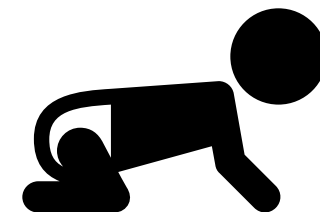
目指すコミュニティの姿（現状）

◆ ユーザ対ユーザの会話が増えて、レベル問わず気軽に誰でも質問でき、誰かが回答してくれる **半分達成！**

◆ ユーザが自主的に勉強会を開催したり、事例を共有しあってくれる **少しずつ...**

▶ コミュニティの自走

走り始めたところ



まとめとこれから

まとめとこれから

- ◆ 目標であるコミュニティの自走はまだ走り始めたばかり
- ◆ ユーザ交流の機会を増やし、より気軽な環境に
- ◆ 分野跨ぎでの交流も可能な場にしたい

